

# 幾何公差・最大実体公差<sup>Ⓜ</sup>図面の読解

3DCADによる設計が主体の現在では、形状モデル（3DCADモデル）が理論的に正確な形態（TEF）です。この形態から許容できる誤差を定義したものが幾何公差の輪郭度です。通常検査では、非接触式三次元測定機で部品形体の表面を測定して点群データを求め、形状モデルと点群データを比較することで誤差を検証しています。

本訓練コースでは、3DCAD時代における幾何公差の表し方と測定について学び、演習問題でそれらの理解度を深めます。

- 講座開催日……………令和7年8月18日(月)、19日(火)
- 対象者……………機械設計、生産技術、品質管理に携わる在職中の方
- スケジュール

実施日	時間	会場	内容
1日目	9:00~16:00	浜松技術専門学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・形態と幾何公差</li><li>・三平面データ系とワーク座標系</li><li>・円、平面、軸の測定</li><li>・三平面をデータムとする穴の図面と評価</li><li>・穴の軸直線をデータムにする図面とその評価</li></ul>
2日目			<ul style="list-style-type: none"><li>・最大実体公差<sup>Ⓜ</sup></li><li>・回転体と振れの公差</li><li>・輪郭度とその評価</li><li>・3D単独図とPMI</li><li>・演習問題</li></ul>

※上記内容は変更になる場合があります。

- 講師……………公立大学法人静岡文化芸術大学 名誉教授 工学博士 望月 達也 氏  
(研究分野: CAD/CAM/FP、デジタルモデリング (3D Modeling)、デジタルものづくり、機械設計製図)
- 定員……………15名
- 受講料……………2,200円 (テキスト代等)  
※講習会初日に現金でお支払いください。

